

都道府県別賞一等

父の想い

東京都 町田市立南成瀬中学校 二学年

谷岡 里桜

昨年、父が亡くなりました。私は幼い頃から、父が大好きでした。そんな父が突然居なくなり、私は、普通の生活を送ることも難しい程のショックを受け、一時、何も考えられず、何も感じなくなりました。

しばらくそんな日が続きましたが、時間が経って、少しずつ気持ち落ち着いてくると、今度は、別のことが気になりました。これまで、父が働いて私達家族の生活を経済的に支えてくれていました。その父が居なくなり、これから私達はどうかやって生活していけばいいのだろうか。私は、これまで通りに学校へ通えるのだろうか。私には大学生の兄がいますが、兄もこのまま大学へ通えるのだろうか。考えても答えの出ない不安が、私の中で日々大きくなっていきました。

私は、自分の不安を母に正直に話してみました。すると、母は、これから私達家族がどうやって生活をしていくかについて、大きく二つのことについて話をしてくれました。

まず一つ目は、父が亡くなったことで、国から出る「遺族年金」というものがあるということでした。家族を経済的に支えてくれた人が亡くなった場合に、その家族が路頭に迷うことなく過ごせるように、国が守ってくれる制度だそうです。

そして、二つ目が、父が掛けていた生命保険からおりる保険金です。「保険」という制度のことは、ある程度は知っていましたが、母からの話で、私は初めて保険というものを身近に感じました。父は、生前から自分に何かあった時にも家族が困らないように、様々なことを考えて保険に入っていたそうです。ケガや病気をして働けなくなった時のために、入院したり治療にかかる費用を賄うため、そして、万が一自分が死亡した時に家族のその後の生活を支えるための保険です。

父と母が結婚した時に、二人で相談して保険に入ったそうです。そして、兄や私が生まれて家族が増えるたびに、その都度保険のことを二人で相談してきました。

父が亡くなった年の春、兄は大学生になりました。大学へ進学する費用や、中学生の私にもこれから学費や塾代等の教育費がかかるだろうと、父は家族の将来のことを考えて、数年前に、保険を見直していたそうです。そのおかげで、

第61回中学生作文コンクール

私達家族は、父亡き後もこれまでとほぼ変わらないペースで日常の生活を送ることができています。父は亡くなった今でも、こうして私達家族を守ってくれています。

母は、「お父さんの命と引き換えになったお金には、これからの家族の幸せを願うお父さんの想いがこめられているんだよ。」と言っていました。私も、その言葉を胸に刻んで、これまで当たり前前に過ごしていた毎日を変わずに送ることができるとを、父に感謝したいと思います。

父が家族のことを想ってかけてくれたいた保険が、父から私への励ましのようでもあり、私達家族と父の想いを今もつなげてくれているように感じています。

父の想いに応えるためにも、私は、これからも自分の夢に向かって、しっかりと生きていきます。